

平成29年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年1月13日

上場会社名 株式会社メディア工房 上場取引所 東
 コード番号 3815 URL http://www.mkb.ne.jp
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長沢 一男
 問合せ先責任者(役職名) 管理部長 (氏名) 長沢 和宙 (TEL) 03-5549-1804
 四半期報告書提出予定日 平成29年1月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無 ()

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年8月期第1四半期の連結業績(平成28年9月1日～平成28年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年8月期第1四半期	541	5.5	6	△69.9	4	△61.9	68	—
28年8月期第1四半期	512	△13.2	22	△79.9	12	△88.6	△12	△122.5

(注) 包括利益 29年8月期第1四半期 69百万円(△31.9%) 28年8月期第1四半期 102百万円(45.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年8月期第1四半期	6.39	6.37
28年8月期第1四半期	△1.18	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年8月期第1四半期	3,384	1,869	53.9
28年8月期	3,260	1,796	53.8

(参考) 自己資本 29年8月期第1四半期 1,825百万円 28年8月期 1,755百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年8月期	—	—	—	—	—
29年8月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 平成29年8月期の配当予想につきましては、当社では配当性向25%～35%を指標としているものの、新規サービスにおける課金状況の伸び悩み、あるいは新規ゲームタイトルのリリース時期やダウンロード数等の不確定要素が多く存在することから配当予想に関しては見送ることとしております。

3. 平成29年8月期の連結業績予想(平成28年9月1日～平成29年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	2,500	28.8	180	588.8	180	—	108	—	10.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 平成29年8月期の通期業績見通しにつきましては、占いコンテンツ事業における収益モデルの多様化・世界展開による配信網の拡大や電話占いサービスによる新規サービスの強化に伴う売上高の緩やかな上昇、並びにゲームコンテンツ事業におけるセカンダリー事業の安定的収益及びIPを活用した低コストな新規タイトルのリリースによる売上寄与を想定した数値であります。従って、新規サービスにおける課金状況の伸び悩みあるいは新規ゲームタイトルのリリース遅延やダウンロード数の不調によっては変動する可能性があります。上記の各事業の進捗並びに業績に与える影響を精査の上、当該連結業績予想に変更が生じた際は、速やかに訂正・開示いたします。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 社(社名) 、除外 社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年8月期1Q	11,300,000株	28年8月期	11,300,000株
② 期末自己株式数	29年8月期1Q	588,876株	28年8月期	588,876株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年8月期1Q	10,711,124株	28年8月期1Q	10,697,124株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

本決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続きの対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表に対する監査手続きは終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載される業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提条件に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績のご利用に当たっての注意事項等に関しては、添付資料「1. 経営成績・財務状態に関する分析」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

業績の状況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、消費マインドに足踏みが見られるものの、各種経済・金融対策による企業収益並びに雇用・所得環境の改善がみられ、緩やかな回復基調となりました。

しかし、中国を始めとするアジア新興国等における海外経済情勢の不確実性が引き続いており、我が国における景気が下押しされるリスクが想定されることから、先行きは依然として不透明な状況であります。

一方、当社グループの中心事業であるデジタルコンテンツビジネス、特にアプリにおける収益に関しては、減速傾向は見られるものの、2020年までは、引き続きゲームアプリがアプリ内広告とアプリストアの合計収益の半分以上を占める状況となると予測されております。また、非ゲーム系アプリの合計収益が2020年までに3倍以上に増加すると予想されていることから(注)、自社コンテンツに多様性を持たせることが重要となってくると考えられます。

このような事業環境の中、当社グループは、自社コンテンツのアジア諸国を中心とした海外展開、子会社によるゲームコンテンツのセカンダリー事業の展開、AI事業部の立ち上げやAR(拡張現実: Augmented Reality)、VR(仮想現実: Virtual Reality)技術を持つ企業との事業提携など、既存事業はもちろん、新たな分野に対し幅広く進出をしております。また、財務面においては、固定資産の売却を行うなど、資産内容の見直しを行うことで経営の更なる健全化を進めてまいりました。

以上の結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高541百万円(前年同期比5.5%増)、営業利益6百万円(前年同期比69.9%減)、経常利益4百万円(前年同期比61.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益68百万円(前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失12百万円)となりました。

(注) App Annie の「マネタイズ調査レポート」(2016年11月)によっております。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

① 占いコンテンツ事業

占いコンテンツ事業につきましては、ISP(Internet Service Provider)、各移動体通信事業者、Apple や Google 等のプラットフォーム向けに占いコンテンツ等を企画・制作・配信するビジネスを中心に展開する他、電話による占いサービスの提供を行っております。当第1四半期連結累計期間においては、日本国内のAppStore で無料総合ランキング2位にランクインしたAndroid及びiPhone向けアプリ『性格美男美女診断2』を、台湾・香港・マカオに向けて配信するなど、前事業年度に引き続きコンテンツの世界展開を最重要課題と認識し、アジア諸国を中心にその展開を加速いたしました。また、KDDI 株式会社及び沖縄セルラー電話株式会社が提供する「auスマートパス」、ソフトバンク株式会社が提供する「App Pass」に、各企業との協業のもと様々なアプリケーションを提供し、多角的なコンテンツ提供を行ってまいりました。

電話占いサービスにおいては、既存の電話による占いサービスの提供の他、「占い」に対する多様なニーズを積極的に取り入れ、LINE株式会社の提供する「LINEお悩み相談」「LINEトーク占い」へのコンテンツ並びに占い師の提供に力を注いでまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における占いコンテンツ事業の売上高は429百万円(前年同期比10.9%減)、営業利益は146百万円(前年同期比13.7%減)となりました。

② ゲームコンテンツ事業

平成28年9月1日付の事業譲受により、当社グループのゲーム事業は、「OBOKAID'EM」、「株式会社ブルークエスト」、「株式会社ルイスファクトリー」の3ブランドでゲーム制作及び配信を行っております。当第1四半期連結累計期間におきましては、ルイスファクトリーにて、国内セカンダリー事業の譲受後第1弾となる運営移管タイトル『イグドラシル戦記～世界樹の騎士団～』を平成28年12月より運営し、新たな分野での好調な発進を見せました。

また一方でOBOKAID'EMにおいては、アイドルゲーム「みどりのほし」の続編、「みどりのほしほし」を平成28年9月に全世界約140カ国で配信し、リリースから約1ヶ月で100万ダウンロードを達成いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるゲームコンテンツ事業の売上高は110百万円(前年同期比388.6%増)、営業損失は33百万円(前年同期は営業損失32百万円)となりました。

③ その他

新規事業におきましては、平成28年10月にAI事業部「found it Project」の立ち上げの他、米国法人である DoubleMe, Inc と資本及び業務提携契約を締結し、日本における同社の HVR (Holographic Virtual Reality) 技術に関する優先的な使用許諾権を受けるなど、最先端技術を活用した事業への参入及び先行投資を行ってまいりました。いずれも現時点においては収益段階には至らないものの、今後の当社事業において重要な役割を果たすものと考えております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるその他の事業の売上高は0百万円(前年同期比88.8%減)、営業損失は3百万円(前年同期は営業損失13百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当連結会計期間末における総資産は3,384百万円であり、前連結会計期間末と比較して123百万円増加しております。これは主に、現金及び預金368百万円の増加、固定資産の売却による有形固定資産252百万円の減少、事業譲受による仕掛品7百万円及びのれん100百万円の増加、及び関係会社株式36百万円の減少によるものであります。負債合計は1,514百万円であり、前連結会計年度末と比較して50百万円増加しております。これは主に、1年内返済予定の長期借入金19百万円の減少、未払法人税等21百万円の増加によるものであります。

純資産合計は1,869百万円であり、前連結会計年度末と比較して73百万円増加しております。これは主に利益剰余金68百万円の増加、その他有価証券評価差額金3百万円の増加、及び新株予約権3百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年1月13日の「平成29年8月期 第1四半期決算短信」に記載のとおりであります。当該連結業績予想は、占いコンテンツ事業における収益モデルの多様化・世界展開による配信網の拡大や電話占いサービスによる新規サービスの強化に伴う売上高の緩やかな上昇、並びにゲームコンテンツ事業におけるセカンダリー事業の安定的収益及びIPを活用した低コストな新規タイトルのリリースによる売上寄与を想定した数値であります。従って、新規サービスにおける課金状況の伸び悩みあるいは新規ゲームタイトルのリリース遅延やダウンロード数の不調によっては変動する可能性があります。上記の各事業の進捗並びに業績に与える影響を精査の上、当該連結業績予想に修正の可能性が生じた際は、速やかに訂正・開示いたします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

(連結の範囲の重要な変更)

該当事項はありません。

(持分法適用の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間より、当社の持分法適用関連会社であった株式会社ギフトカムは、全保有株式を売却したことに伴い、持分法適用の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,735,069	2,103,583
売掛金	363,976	396,450
商品	0	0
仕掛品	10,049	17,249
貯蔵品	1,292	1,217
その他	199,462	69,434
貸倒引当金	△3,421	△3,098
流動資産合計	2,306,429	2,584,836
固定資産		
有形固定資産	280,001	27,304
無形固定資産		
のれん	6,239	106,880
その他	316,421	328,514
無形固定資産合計	322,661	435,394
投資その他の資産		
関係会社株式	156,753	120,625
敷金及び保証金	102,974	102,474
その他	122,481	144,083
貸倒引当金	△30,509	△30,509
投資その他の資産合計	351,699	336,672
固定資産合計	954,362	799,372
資産合計	3,260,791	3,384,208
負債の部		
流動負債		
買掛金	45,667	48,946
1年内返済予定の長期借入金	695,043	675,573
未払費用	97,894	96,820
未払法人税等	280	22,079
その他	29,766	72,548
流動負債合計	868,652	915,968
固定負債		
長期借入金	596,070	599,012
固定負債合計	596,070	599,012
負債合計	1,464,723	1,514,980

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	451,459	451,459
資本剰余金	356,492	356,492
利益剰余金	1,052,706	1,121,127
自己株式	△103,508	△103,508
株主資本合計	1,757,150	1,825,571
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△1,655	△3,401
その他有価証券評価差額金	—	3,128
その他の包括利益累計額合計	△1,655	△272
新株予約権	40,404	43,580
非支配株主持分	168	348
純資産合計	1,796,068	1,869,228
負債純資産合計	3,260,791	3,384,208

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成27年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成28年11月30日)
売上高	512,897	541,316
売上原価	246,763	311,105
売上総利益	266,134	230,211
販売費及び一般管理費	243,257	223,328
営業利益	22,877	6,883
営業外収益		
受取利息	112	—
受取手数料	27	22
その他	95	50
営業外収益合計	235	72
営業外費用		
支払利息	2,127	2,081
持分法による投資損失	8,538	—
その他	51	150
営業外費用合計	10,717	2,232
経常利益	12,395	4,723
特別利益		
固定資産売却益	—	69,671
関係会社株式売却益	—	28,376
その他	—	1,492
特別利益合計	—	99,540
税金等調整前四半期純利益	12,395	104,264
法人税、住民税及び事業税	13,331	19,198
法人税等調整額	12,452	16,464
法人税等合計	25,783	35,662
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△13,388	68,601
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△744	180
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△12,644	68,421

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成27年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成28年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△13,388	68,601
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	3,128
持分法適用会社に対する持分相当額	116,204	△1,745
その他の包括利益合計	116,204	1,382
四半期包括利益	102,815	69,983
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	103,559	69,803
非支配株主に係る四半期包括利益	△744	180

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成27年9月1日 至 平成27年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	占いコンテ ンツ事業	ゲームコン テンツ事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	482,610	22,631	505,242	7,655	512,897	—	512,897
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	482,610	22,631	505,242	7,655	512,897	—	512,897
セグメント利益又は セグメント損失(△)	169,997	△32,281	137,715	△13,935	123,779	△100,902	22,877

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、O2O事業を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△100,902千円には、各報告セグメントに配分していない
 全社費用△101,652千円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 平成28年9月1日 至 平成28年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	占いコンテ ンツ事業	ゲームコン テンツ事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	429,876	110,581	540,458	858	541,316	—	541,316
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	429,876	110,581	540,458	858	541,316	—	541,316
セグメント利益又は セグメント損失(△)	146,676	△33,114	113,562	△3,105	110,456	△103,573	6,883

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、O2O事業を含んでおります。
 2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△103,573千円には、各報告セグメントに配分していない
 全社費用△105,327千円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。
 3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「ゲームコンテンツ事業」において、セカンダリー事業及び新規ソーシャルゲームの制作事業を事業譲受して
 おります。当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間において106,641千円であります。